

令和6年度 絵画科日本画専攻 出題意図

1次 鉛筆素描

観察力、構成力や基礎的な描写力の有無を判断するための出題である。

テーブルの上に背中合わせに3体の石膏像（ヘルメス）を配置し、そこから2体以上を選択して構成することで、対象を切り取り画面に構図する考え方、空間認識力、また絵画としての意識を持って全体のバランスを捉えられているかを評価の対象とした。

2次 着彩写生

中央のテーブルに置かれたモチーフと各自に配られたモチーフとを画面上で構成することにより、絵画性や構成力をみる出題である。また色味の少ないモチーフをどのように描くかで各々の色彩感覚も判断する。

評価の基準としては、別々の場所に置かれたモチーフを一つの平面上に統一、構成できているか。その結果として絵画的な構図・構成としてまとめられているか。地味な色味のモチーフからどれだけ魅力的な色彩を抽出できているか。加えてモチーフそのものの実感や、質感等の様々な違いが描き分けられた上で、全体のバランスがとれているのかも大切な評価基準である。